

平成29年度厚生労働科学研究費補助金（統計情報総合 研究事業）  
（分担）研究報告書

適切な原死因記載のための教育コンテンツの開発

研究分担者 宮武 伸行 香川大学医学部 准教授

研究要旨

本研究では、原死因を適切に記載するための教育コンテンツを開発し、死亡診断書・死体検案書の標準的な記載例集を収載し、原死因を適切に記載することの普及・啓発を目的とする。

本年度は、原死因選択ルールに基づいた模範記載例（標準的記載例）の内容の充実を図った。疾病による死亡から外因死、さらには両者の関与する事例など、多岐にわたる事例ベースの具体的記載例を作成した。記載例を活用することで、死亡診断書・死体検案書の適切な記載が増えることが期待される。

A．研究目的

死亡診断書・死体検案書の標準的な記載例を作成し、原死因の適切な記載につながる教育コンテンツの開発を目的とする。

B．研究方法

研究開発としては、事例と模範記載例（標準的記載例）および記載事項の解説からなるコンテンツを作成する。特に、記載のしかたに悩む例での活用を主眼に事例を構成する。

過去の経験や学会等で伝聞した情報も含め、内因（疾病によるもの）と外因（外傷や中毒、温度環境など）の両者が関与する事例、さらには多くの病態が関与する例や経過の非常に長い例など、多岐にわたる事例を収集する。それらの事例から、死亡診断書・死体検案書等を作成する上で問題となる点や課題を抽出し、実際に即した形での模擬事例を作成した。作成した模擬事例につき、模範記載例（標準的記載例）を作成し、さらに解説も加えて内容の充実を図った。様々な領域の専門家から構成される各分担研究者、研究協力者の協力の下、作成した記載例については、研究班員全員でのブラッシュアップを行い、様式の統一を図った。

（倫理面への配慮）

例示の作成に際しては、個人情報や個人が特定できるような内容は含めないよう、十分配慮した。

C．研究結果

死亡診断書・死体検案書作成の際に、因果関係の記載が困難な例として、特に、内因と外因の両者が関与する事例や、医学的な因果関係を捉えにくい（記載しにくい）事例、まれな事例があげられる。それらを中心に、多数の事例を設定し、それぞれについて模範記載例（標準的記載例）を作成した。

D．考察

死因統計は、わが国の保健衛生行政や社会的にも広く活用されており、保健衛生政策を実施していく上での基盤データのひとつである。その集計にあたって収集される死因データは、一人一人の死亡診断書、死体検案書の記載内容が基になっており、死因欄に記載された傷病から選択された原死因を基礎としている。そのため、死亡診断書・死体検案書の作成にあたり、どのような形で記載内容が統計作成に利用されているかを十分認識しておくことが重要であるが、現状の意識・認識は必ずしも十分ではない。その結果、原死因を十分考慮していない記載も見受けられる。

死亡診断書、死体検案書の作成に関する事項については、医学部の学部教育のみならず、現場で診療や死体検案に従事する医師を対象とした研修会等での普及・啓発も不可欠である。

本研究で作成した教育コンテンツの事例集とその模範記載例(標準的記載例)は、内容に関しても講義や研修会等でも幅広く活用できるように充実させた。

#### E . 結論

死亡診断書・死体検案書作成の際に記載に悩む例について、因果関係の記載が困難な例を中心に、適切な記載についての内容例示を充実させた。今回作成した教育コンテンツは、どの部分からでも利用可能であり、気軽に眺めるだけでも学修は可能である。教育コンテンツの活用が、死因統計の精度向上を通じ、国民の健康増進・福祉の向上に大きく寄与することが期待される。

#### F . 健康危険情報

該当なし。

#### G . 研究発表

##### 1. 論文発表

Yamamoto Y, Miyatake N, Kinoshita H, Tanaka N, Kuratou R, Katayama A, Fukunaga T. Changes in asphyxia death classified by month in the 23 wards of Tokyo. Curr Study Environ Med Sci 2017; 10: 3-9.

宮武伸行, 田中直子, 木下博之, 福永龍繁: 東京 23 区における凍死者数と気温指標との関連および凍死者数の月別比較 . 地域環境保健福祉研究 . 2017; 20: 27-30.

##### 2. 学会発表

なし

##### 3. 関連した実務活動

なし

#### H . 知的財産権の出願・登録状況( 予定を含む )

該当なし。

